

総合研究奨励賞 (結城賞)



湯本 哲也

略 歴

- 2006年 3月 岡山大学医学部医学科 卒業
- 2006年 4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院 初期研修医
- 2008年 4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院 救急科 医員
- 2009年 4月 大阪医療センター 救命救急センター 専攻医
- 2011年 4月 水戸医療センター 外科 専攻医
- 2013年 4月 岡山大学病院 救急科 助教
- 2015年 6月 岡山大学医歯薬学総合研究科博士課程 修了
- 2019年 10月 米国エモリー大学 外科・クリティカルケアセンター 客員研究員
- 2021年 10月 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 地域救急・災害医療学講座 講師
- 2022年 4月 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 救命救急・災害医学講座 講師

研究論文名 Organ donation after extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: a nationwide retrospective cohort study

掲載雑誌名 *Critical Care*

研究論文内容要旨

臓器を提供するドナーの不足は、我が国のみならず国際的にも深刻な問題である。心肺停止による低酸素性脳症は、ドナーの原疾患として最も多い病態の1つである。近年は心肺停止に対して体外式膜型人工肺（ECMO）を使って蘇生を試みる体外循環式心肺蘇生法（ECPR）という高度な心肺蘇生法が確立されている。しかしながら、脳機能が回復せずに脳死に至る患者が一定数存在するものの、ECPRを受けた患者がどの程度臓器提供に至っているか、またレシピエントの長期成績についての報告は皆無である。本研究は、日本臓器移植ネットワークのデータベースを使用し、心停止のエピソードがあり臓器提供に至ったドナーのうち、ECPRを受けたドナーと受けなかったドナーの特徴やレシピエントの長期成績について比較・検討した。

2010年7月17日から2022年8月31日までの12年間に脳死下臓器提供に至ったのはECPR群が26例、非ECPR群が344例であった。年齢や性別に差はなく、ECPR群は非ECPR群と比較し、脳死下臓器提供に至るまでの期間が長かった（13日 vs. 9日、 $p=0.005$ ）。またレシピエントの長期成績について、ECPRを受けたドナーから移植を受けた場合に移植肺の生着率は悪いものの（Log-rank $p=0.009$ ）、心臓、肝臓、膵臓、腎臓、小腸についてはECPR群と非ECPR群で同等であった。一方、心停止下臓器提供については両群で臓器提供までの日数や移植腎の生着率に差は認めなかった。

ECPR後に、ECMOから離脱し臓器提供に至った症例はほんの一握りであり、医療者側から家族に適切な情報提供がなされずに看取りとなった症例も多数存在すると考えられる。また、レシピエント側の長期成績についても肺以外では差がなかったことから、ECPRが行われた患者においても患者の意思をできる限り尊重するために、医療者は家族に適切な情報提供に努める必要があると考えられた。また、本邦でも2024年1月からはECMO装着下でも脳死判定が可能となったため、今後更なる研究が必要である。